

植物園), 武田庄平 TAKEDA Shouhei (東京農工大学 / 教員), 黒鳥英俊 KUROTORI Hidetoshi (多摩動物公園)飼育下オランウータンにおける, 物理的環境エンリッチメントの行動学的・生理学的分析
Behavioral and physiological analysis of physical environmental enrichment in captive orangutans (*Pongo pygmaeus*)

霊長類学総合ゼミナールは, 研究所内ティーチング・アシスタントを中心とした大学院生が企画および運営にあっている。形式は自由で大学院生に委ねられており, 本年度も例年どおりミニシンポジウムのかたちでおこなった。その目的は, 若手研究者が各自の研究成果ないし研究計画を報告することで, 学術的な交流を深めることにある。とくに, 博士論文や修士論文の発表の機会をもたない学年には, 所内にひろく自分の研究を紹介するよい機会となる。また, 各分野でおこなわれているゼミナールとは異なり, ふだん研究発表を聴く機会のない他分野との交流も目的としている。博士後期課程2年目の大学院生が, 博士論文の中間報告を兼ねた口頭発表をおこない, 修士課程1年および博士後期課程1年の大学院生がポスター発表をおこなった。また, ポスター発表において若手研究員や所外などからの参加を積極的に呼びかけた。本年度は, 霊長類研究所の改修工事の影響により, 例年会場として使用している本棟大会議室に代わり, 犬山国際観光センター『フロイデ』の会議室を使用した。工事の影響で離散を余儀なくされた大学院生および教員が, 一同に会する貴重な機会となると同時に, 発表者や参加者が見識を高める意義深い研究会となった。なお, 霊長類学系の修士課程および博士後期課程の大学院生には単位が認定されるものである。

(TA: 張鵬, 酒井朋子, 小倉匡俊, 橋本亜井)

(文責: 橋本亜井)

IV. グローバル COE としての活動

本年度のよりあらたに21世紀COEのあととして採択され引き続き, 生物学専攻が一体となって, 生物多様性をゲノムの観点から研究・教育の推進をおこなうこととなった。博士課程大学院生をRAとして雇用し, プロジェクト推進のステップアップのための設備の充実をおこなった。

(文責: 正高信男)